

天文学とプラネタリウム

第45回



■お正月に「あすとろかるた」で遊んだ方、ぜひ感想をお寄せ下さい！

今月のお題

歌って踊れる天文学



『我々はあなたの才能を求めています！！』



www.tenpla.net

高梨直紘（東大D3／天文学教育研究センター所属）

平松正顕（東大D3／国立天文台ALMA推進室所属）

「天文学を学んでまーす」と言うと、よく「星を毎晩見ているんですか？」と聞かれることも少なくありません。天文学は大きく分けると理論と観測という分野があるのですが、“観測”天文学を行っている人間でも毎晩観測しているなんて人はほとんどいません（高梨も平松も専門は観測天文学です）。年に数回観測を行って、あとはずっとパソコンとにらめっこしながらデスクワーク…という人が大部分です。

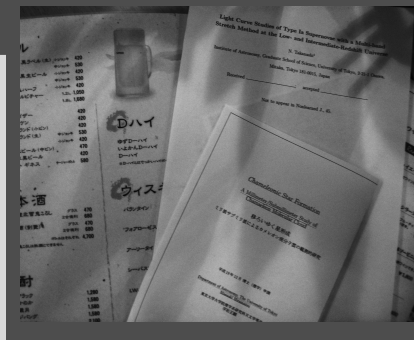
仕事のスタイルは人それぞれですが、作業に集中するべく音楽を聴きながらという人も多いようです。夜中に研究していると、隣の部屋から歌声が聞こえてきたり…なんてことも。天文台の先生の中にはギターのCDを出している方もいて、音楽好きな天文学者は少なくないようです。じゃあ、最新の天文学の成果を詰め込んだ宇宙の歌をいっぱい作っちゃえば楽しいんじゃないでしょうか？

日本でも、私の知る限りでは、本誌でも連載のあるアクアマリンさんとzabadakさん、新居昭乃さんなどが宇宙を感じさせてくれる作品を多く上梓しているように思いますが（それこそ、古くは宮澤賢治の「星めぐりの歌」なども）、

ハードな天文学の曲はないように思います。しかし、他の分野に目を移すと、「ゾウの時間ネズミの時間」という本でも有名な生物学者の本川達雄さんの著作（作品？）に、「歌う生物学」（阪急コミュニケーションズ、2002年）という熱い本（CD付）があるのです。ひたすら生物学の知見が詰め込まれた怒濤の70曲が収録されたこの本に、天プラもぜひ続きたい！

海外にはあるぞ、天文学の歌

実は、海外ではこのような試みはかなり活発なようです。例えば、「AstroCapella」というプロジェクト。天文学者や先生たちがア・カベラのグループを作ってなかなか濃い歌を歌っています。曲のタイトルだけ見ても、「Wolf359」（αケンタウリの次に太陽系に近い恒星）とか「HST-Bop」（ハッブル宇宙望遠鏡賛歌）とか。私はCDを持っているので実際に聞いているのですが、著作権の関係でココに歌詞をご披露できないのが残念です。歌詞はウェブでも見ることが出来ますので、下のURLをぜひたどってみてください。→<http://www.astrocapella.com/>



博士論文執筆に追い込まれる(?)二人(!?)。締め切りまであと3週間！

どうせなら踊ってしまえ

我々も負けてはいられません。しかも独自色を出したい…となれば、紙面の関係で論理が飛躍しますが、歌だけでなく踊りも付ける!!! 簡単だけど内容は深く、笑えるけどやってみると楽しい。そんな感じの歌って踊って楽しめる天文ソング、一緒に考えてみませんか？興味のある方、アプローチをお待ちしています！